淀川左岸線事故の復旧状況について

平成 24 年 1 月 23 日
阪神高速道路株式会社

平成 23 年 9 月 29 日に発生しました淀川左岸線正蓮寺川西工区（北港新橋付近）における土留め壁の崩壊事故につきまして、周辺住民の方々や河川管理者等関係機関の多くの方々にご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

現在、復旧作業や事故の原因究明等を実施しているところですが、それらの状況をご報告いたします。

１．事故現場の状況

流入水の状況

事故により仮水路から工事現場に多量の水が流入しましたが、水質の監視ならびに現場の安全管理を強化しながら河川への排水を開始しました。事故現場周辺を除く区間については排水を完了し、トンネル工事を再開しております。

土留壁の復旧状況

事故調査技術委員会の審議をうけて、事故により損壊した土留壁は鋼管矢板により再構築しており、排水とともに支保工の復旧を進めています。

今後の対応

引き続き、周辺環境等地域の皆様の安全と安心の確保を最優先とし、工事現場の安全確認と、周辺への影響監視を行いつつ事故現場の復旧を進めてまいります。

２．淀川左岸線事故調査技術委員会の開催

事故の原因推定および復旧方法を検討するための事故調査技術委員会(委員長：足立紀尚京都大学名誉教授）を開催しています。

日　時：第４回委員会　平成 24 年 1 月 16 日（月）

場　所：阪神高速道路株式会社建設事業本部

出席者：委員長　　足立紀尚　京都大学名誉教授
　　委　員　　常田賢一　大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻教授
　　委　員　　木村　亮　京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授

第４回実施状況（主な議題と審議結果）

（１）追加地盤調査結果

追加した事故現場近傍の地盤調査結果からも、当初に設定した地盤定数を下回るものが見られた。

（２）原因推定

前回の解析結果（土留め壁の背面の土が底部から回り込んで掘削面側の地盤が変形する挙動）に加え、土留め壁前後の土圧バランスが崩れて地盤が破壊する挙動が複合的に生じたことも考えられる。さらに、解析による評価だけでなく、排水後の現地を確認し、事故原因を究明することとなった。

（３）設計照査報告

事故箇所以外の掘削が完了していないブロックの土留め工設計の照査結果について承認された。

今後の対応

本委員会の審議結果を踏まえて、今後も適宜助言を得ながら、３月の復旧完了を目指して検討を進めて参ります。

今後も、周辺環境等へ影響を及ぼさないよう、また、周辺住民の方々にご心配とご迷惑をおかけしないよう、関係機関と協議を進めて早期復旧と事故再発防止に努めて参りまので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。